



平成23年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成22年7月30日

上場会社名 株式会社WOWOW 上場取引所 東
 コード番号 4839 URL <http://www.wowow.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 和崎 信哉 (TEL) 03-4330-8097
 問合せ先責任者 (役職名) IR経理局長 (氏名) 大熊 和彦 配当支払開始予定日 —
 四半期報告書提出予定日 平成22年8月13日
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家向け）

(百万円未満切捨て)

1. 平成23年3月期第1四半期の連結業績（平成22年4月1日～平成22年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年3月期第1四半期	16,278	0.4	2,764	△0.9	3,010	6.9	1,797	△20.2
22年3月期第1四半期	16,217	△1.4	2,790	—	2,815	—	2,252	—

	1株当たり四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益	
	円	銭	円	銭
23年3月期第1四半期	12,461	35	—	—
22年3月期第1四半期	15,618	32	—	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	百万円	百万円	百万円	%	円	銭	
23年3月期第1四半期	42,715	24,844	24,844	24,844	57.8	171,111	64	
22年3月期	44,457	23,729	23,729	23,729	53.0	163,322	56	

(参考) 自己資本 23年3月期第1四半期 24,678百万円 22年3月期 23,554百万円

2. 配当の状況

	年間配当金					
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計	
	円	銭	円	銭	円	銭
22年3月期	—	—	0	00	3,000	00
23年3月期	—	—	—	—	—	—
23年3月期(予想)	—	—	0	00	3,000	00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無：無

3. 平成23年3月期の連結業績予想（平成22年4月1日～平成23年3月31日）

(%表示は、通期は対前期、第2四半期(累計)は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
第2四半期(累計)	32,700	0.3	4,200	△6.6	4,300	△5.1	2,500	△22.1	17,334	39
通期	66,000	0.7	5,900	6.1	6,000	2.0	3,600	△20.2	24,961	52

(注) 当四半期における業績予想の修正有無：無

4. その他（詳細は、[添付資料] 4 ページ「その他の情報」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更（四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの）

① 会計基準等の改正に伴う変更：有

② ①以外の変更：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

23年3月期1Q	144,222株	22年3月期	144,222株
23年3月期1Q	0株	22年3月期	0株
23年3月期1Q	144,222株	22年3月期1Q	144,222株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（四半期累計）

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等はさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信（添付資料）3 ページ「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. その他の情報	4
(1) 重要な子会社の異動の概要	4
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	4
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	4
(4) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要	4
3. 連結財務諸表等	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 継続企業の前提に関する注記	9
(5) セグメント情報	9
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	9
4. 補足情報	10
(1) 販売の状況	10
(2) 四半期単体情報（参考）	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期（4月～6月）におけるわが国経済は、好調な新興国経済の需要増を背景に、企業の収益は改善しつつありますが、厳しい雇用情勢や個人消費の低迷が続くなど、先行き不透明な状況にあります。放送業界におきましては、広告市況は企業業績の改善を背景に回復しつつありますが、依然として厳しい状況にあります。

このような環境下、当第1四半期連結累計期間における収支の状況は、放送収入並びにテレマーケティング関連における受注が堅調に推移したことにより、売上高は162億78百万円と前年同期に比べ60百万円（0.4%）の増収となりました。売上原価の増加により、営業利益は27億64百万円と前年同期に比べ25百万円（0.9%）の減益となり、また経常利益は、円高による為替差益の計上等により30億10百万円と前年同期に比べ1億95百万円（6.9%）の増益となりました。四半期純利益は、前年同期に存在した一時差異の解消により法人税等が増加したため、17億97百万円と前年同期に比べ4億55百万円（20.2%）の減益となりました。

当社グループは、放送衛星を使った放送事業に係るサービスを行う「放送」、放送事業に係る顧客管理業務を含む「テレマーケティング」の2つを報告セグメントとしております。各セグメントの状況は次の通りです。

(i) 放送

オリジナルドラマ製作プロジェクト「ドラマW」では、東京ドラマアウォード作品賞グランプリなど数多くの賞に輝いた連続ドラマW「パンドラ」（2008年）の制作チームが再集結した新シリーズ「パンドラII 飢餓列島」を放送しました。初回を無料放送でお届けした結果、前作「パンドラ」の初回放送時を大きく上回る新規加入件数を獲得しました。また、オリジナル・ノンフィクション・エンターテインメント「ノンフィクションW」では、3D業界の最前線に迫った「3Dサバイバル～エンターテインメントビジネスを変えるもの」や、フジテレビ「ザ・ノンフィクション」と共同制作した「ラーメン+Ramen ～なんでこんなに好きなんだ？～」など、さまざまなジャンルのドキュメンタリーをお届けしています。

映画では2009年映画興行収入No.1の「ROOKIES-卒業-」や「アマルフィ 女神の報酬」などのメガヒット作品をゴールデンウィークに放送し、スポーツでは、錦織圭選手やクルム伊達公子選手の出場で注目度が高かった「全仏オープンテニス」や「ウィンブルドンテニス」などをお届けしました。さらに6月には「マイケル・ジャクソン フォーエバー」と題し、「マイケル・ジャクソン THIS IS IT」を筆頭に、幻のショートフィルムやライブをオンエアし、好評を得ました。

新たな伝送路での収益拡大を図るため、平成22（2010）年6月1日より「スカパー！HD」のプラットフォーム上でデジタルWOWOWの放送を開始しました。

また映画製作では、劇場用映画レーベル「WOWOW FILMS」の最新作「武士道シックスティーン」が平成22（2010）年4月に全国劇場公開となり、キャストファン、映画ファンを中心に観客動員が堅調に推移しました。WOWOW FILMS製作参加作品では、「ゼブラーマン -ゼブラシティの逆襲-」、「ボックス!」、「ソフトボーイ」を公開しました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間における放送セグメントの売上高は15,519百万円、セグメント利益は2,540百万円となりました。また、当第1四半期の新規加入件数等は次表の通りとなりました。デジタルダブル契約（注）は、当第1四半期末時点において215,138件（前年同期に比べ75,141件の増加）となっております。

契約種別	新規加入件数	解約件数	正味加入件数	デジタル移行件数	累計正味加入件数
アナログ (対前年同期増減率)	17,095 (△4.9%)	37,788 (△31.0%)	△20,693 (-)	△40,961 (-)	415,983 (△38.4%)
デジタル (対前年同期増減率)	156,022 (△2.0%)	157,753 (21.5%)	△1,731 (-)	40,961 (40.1%)	2,052,059 (14.4%)
合計 (対前期同期増減率)	173,117 (△2.3%)	195,541 (5.9%)	△22,424 (-)	-	2,468,042 (△0.0%)

（注）デジタルダブル契約は「同一契約者による2つ目のデジタル契約」のことで、割引料金を適用（月額2,415円の視聴料金を945円に割引。金額は税込み）。

(ii) テレマーケティング

連結子会社の㈱WOWOWコミュニケーションズにおいて、テレマーケティング業務受託、各種コンタクトセンター受託運営を行っております。市場環境が厳しい中、既存顧客の維持と新規顧客への積極的な営業展開を図るとともに生産性の向上に取り組み、当第1四半期連結累計期間におけるテレマーケティングセグメントの売上高は1,671百万円、セグメント利益は232百万円となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

①資産、負債及び純資産の状況

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、427億15百万円となり、前連結会計年度末に比べ17億42百万円の減少となりました。主な要因は、流動資産で番組勘定、売掛金等が減少したことによるものであります。

負債は、178億70百万円となり、前連結会計年度末に比べ28億56百万円の減少となりました。主な要因は、流動負債で買掛金、未払費用等が減少したことによるものであります。

純資産は、248億44百万円となり、前連結会計年度末に比べ11億14百万円の増加となりました。主な要因は、四半期純利益の計上等によるものであります。

以上の結果、自己資本比率は、前連結会計年度末に比べ4.8ポイント上昇し、57.8%となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当第1四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、前連結会計年度末と比べ1億85百万円減少し、67億96百万円となりました。

当第1四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次の通りであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第1四半期連結累計期間における営業活動の結果得られた資金は6億25百万円（前年同期比7億26百万円減）となりました。主なプラス要因は、税金等調整前四半期純利益29億84百万円の計上及びたな卸資産の減少額10億65百万円等であり、主なマイナス要因は、仕入債務の減少額13億8百万円、法人税等の支払額11億90百万円及びその他負債の減少額10億40百万円等であります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第1四半期連結累計期間における投資活動の結果使用した資金は3億31百万円（前年同期比3億27百万円減）となりました。主な要因は、有形固定資産の取得による支出2億76百万円等によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第1四半期連結累計期間における財務活動の結果使用した資金は4億42百万円（前年同期比8億83百万円減）となりました。主な要因は、配当金の支払額4億23百万円等によるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成22年5月14日に公表いたしました連結業績予想の修正は行っておりません。

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等はさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。実際の業績等に影響を与える可能性のある重要な要因には、以下の事項があります。なお、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものではありません。

- ① 加入者獲得・維持に関わるリスク
- ② 加入代理店に関わるリスク
- ③ B S（放送衛星）利用に関わるリスク
- ④ 当社の地上設備に関するリスク
- ⑤ B Sアナログ放送の直接受信におけるデコーダに関わるリスク
- ⑥ B-CASカードのセキュリティーに関わるリスク
- ⑦ コンテンツに関わるリスク
- ⑧ 映画製作・配給投資に関わるリスク
- ⑨ 著作権などの知的所有権に関わるリスク
- ⑩ 放送関連法制度などの変化に関わるリスク
- ⑪ B Sアナログ放送の終了に関わるリスク
- ⑫ B Sアナログ放送の終了時期変更に関するリスク
- ⑬ 加入者の個人情報保護に関わるリスク
- ⑭ 為替レートの変動に関するリスク

各リスク項目の詳細につきましては、当社IRウェブサイト（http://www.wowow.co.jp/co_info/ir）「IR資料室」に掲載しております第26期有価証券報告書（平成22年6月24日提出）の「企業情報」「事業の状況」「4 事業等のリスク」をご覧ください。

2. その他の情報

(1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

①簡便な会計処理

(法人税等並びに繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法)

法人税等の納付税額の算定に関しては、加味する加減算項目や税額控除項目を重要なものに限定する方法によっております。

また、繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前連結会計年度末以降に経営環境及び一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められる場合には、前連結会計年度において使用した将来の業績予想やタックス・プランニングを利用する方法によっております。

②四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理

該当事項はありません。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

資産除去債務に関する会計基準の適用

当第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用しております。これに伴う営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は、軽微であります。

(4) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

該当事項はありません。

3. 連結財務諸表等

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成22年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,796	6,982
売掛金	2,349	2,634
番組勘定	11,818	12,882
貯蔵品	54	56
その他	2,160	2,028
貸倒引当金	△99	△97
流動資産合計	23,080	24,487
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1,746	1,799
機械及び装置（純額）	2,000	2,012
その他（純額）	1,471	1,533
有形固定資産合計	5,217	5,345
無形固定資産		
借地権	5,011	5,011
のれん	58	63
その他	2,301	2,423
無形固定資産合計	7,370	7,498
投資その他の資産		
投資有価証券	5,777	5,790
その他	1,354	1,425
貸倒引当金	△85	△89
投資その他の資産合計	7,046	7,126
固定資産合計	19,634	19,970
資産合計	42,715	44,457

(単位：百万円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成22年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	9,905	11,207
未払法人税等	1,085	1,187
賞与引当金	92	65
機械設備撤去費用引当金	15	15
その他	5,363	6,587
流動負債合計	16,461	19,062
固定負債		
退職給付引当金	1,114	1,315
機械設備撤去費用引当金	31	31
その他	263	318
固定負債合計	1,408	1,664
負債合計	17,870	20,727
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,000	5,000
資本剰余金	2,738	2,738
利益剰余金	17,257	15,893
株主資本合計	24,995	23,631
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△7	41
繰延ヘッジ損益	△310	△117
評価・換算差額等合計	△317	△76
少数株主持分	166	175
純資産合計	24,844	23,729
負債純資産合計	42,715	44,457

(2) 四半期連結損益計算書
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)
売上高	16,217	16,278
売上原価	7,677	7,679
売上総利益	8,540	8,598
販売費及び一般管理費	5,750	5,834
営業利益	2,790	2,764
営業外収益		
受取利息	1	0
持分法による投資利益	48	80
為替差益	—	146
その他	16	20
営業外収益合計	66	248
営業外費用		
支払利息	4	0
為替差損	33	—
その他	3	1
営業外費用合計	41	2
経常利益	2,815	3,010
特別利益		
貸倒引当金戻入額	55	4
契約解除料返還益	—	31
特別利益合計	55	35
特別損失		
固定資産除却損	1	0
投資有価証券評価損	—	17
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	43
特別損失合計	1	61
税金等調整前四半期純利益	2,868	2,984
法人税、住民税及び事業税	595	1,110
法人税等調整額	15	70
法人税等合計	611	1,181
少数株主損益調整前四半期純利益	—	1,802
少数株主利益	5	5
四半期純利益	2,252	1,797

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	2,868	2,984
減価償却費	475	494
のれん償却額	5	5
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	43
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△651	△2
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△25	26
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	19	△201
受取利息及び受取配当金	△14	△15
支払利息	4	0
為替差損益 (△は益)	17	37
持分法による投資損益 (△は益)	△48	△80
固定資産除却損	1	0
投資有価証券評価損益 (△は益)	—	17
売上債権の増減額 (△は増加)	309	285
前受収益の増減額 (△は減少)	△264	△516
たな卸資産の増減額 (△は増加)	1,479	1,065
仕入債務の増減額 (△は減少)	△1,505	△1,308
未払消費税等の増減額 (△は減少)	157	160
その他の資産の増減額 (△は増加)	554	△154
その他の負債の増減額 (△は減少)	△696	△1,040
小計	2,689	1,801
利息及び配当金の受取額	14	15
利息の支払額	△4	△0
法人税等の支払額	△1,346	△1,190
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,351	625
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△487	△276
無形固定資産の取得による支出	△155	△68
敷金及び保証金の差入による支出	△10	—
敷金及び保証金の回収による収入	—	12
その他	△5	0
投資活動によるキャッシュ・フロー	△659	△331
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△810	—
割賦代金の支払による支出	△37	△1
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△34	△3
配当金の支払額	△421	△423
少数株主への配当金の支払額	△22	△14
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,325	△442
現金及び現金同等物に係る換算差額	△17	△37
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△650	△185
現金及び現金同等物の期首残高	6,363	6,982
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,712	6,796

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

〔事業の種類別セグメント情報〕

放送事業に関するサービスを行う単一事業のため、前第1四半期連結会計期間（自平成21年4月1日 至平成21年6月30日）における事業の種類別セグメント情報は記載していません。

〔所在地別セグメント情報〕

前第1四半期連結会計期間において、本国（日本）以外の国又は地域に所在する連結子会社及び重要な在外支店がないため記載していません。

〔海外売上高〕

前第1四半期連結会計期間において、海外売上高がないため記載していません。

〔セグメント情報〕

1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社及び子会社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定および業績を評価するため、定期的に検討を行う対象となっているものです。

当社は、本国（日本）において放送事業に関するサービスを行っており、当該サービスの一つとして当社の連結子会社である㈱WOWOWコミュニケーションズが当社及び外部から委託を受け、当社の顧客管理業務及びテレマーケティング業務を行っております。㈱WOWOWコミュニケーションズは、当社の顧客管理業務については当社戦略に基づき、テレマーケティング業務に関しては独自の戦略を立案し、事業活動を展開しております。

したがって、当社は、放送事業に関するサービスを行う単一の事業を行っており、放送衛星を使った放送事業に係るサービスを行う「放送」、放送事業に係る顧客管理業務を含む「テレマーケティング」の2つを報告セグメントとしております。

2. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

当第1四半期連結累計期間（自平成22年4月1日 至平成22年6月30日）

（単位：百万円）

	報告セグメント			調整額 (注) 1.	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2.
	放送	テレマーケティング	計		
売上高					
外部顧客への売上高	15,519	758	16,278	—	16,278
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	912	912	△912	—
計	15,519	1,671	17,190	△912	16,278
セグメント利益	2,540	232	2,772	△7	2,764

(注) 1. セグメント利益の調整額△7百万円には、のれん償却額△5百万円が含まれております。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

〔追加情報〕

当第1四半期連結会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」（企業会計基準第17号 平成21年3月27日）及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日）を適用しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

4. 補足情報

(1) 販売の状況

当第1四半期連結会計期間における売上高実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	売上高（百万円）	前年同期比（%）
放送	15,519	—
テレマーケティング	758	—
合計	16,278	100.4

- (注) 1. 上記金額には、消費税等は含まれておりません。
 2. セグメント間の取引については相殺消去しております。
 3. 販売の相手先は一般視聴者であり、主な相手先別に記載すべきものではありません。
 4. 放送セグメントには有料放送収入14,985百万円を含んでおります。

(2) 四半期単体情報（参考）

① 単体経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年3月期第1四半期	15,492	0.7	2,535	△2.9	2,982	△1.4	1,888	△25.7
22年3月期第1四半期	15,380	△0.1	2,612	—	3,025	—	2,542	—

	総資産		純資産	
	百万円	百万円	百万円	百万円
23年3月期第1四半期	38,368	20,957		
22年3月期	39,748	19,743		

(注) 単体経営成績（累計）の数値は、法定開示におけるレビュー対象ではありません。

② 単体業績予想

(%表示は、通期は対前期、第2四半期（累計）は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
第2四半期（累計）	31,000	0.2	3,700	△9.0	4,000	△9.8	2,500	△24.4	17,334	39
通期	62,600	0.8	4,800	5.5	5,100	0.1	3,100	△25.7	21,494	64

(注) 当四半期における業績予想の修正はありません。